

第 48 回カムイ・ヌプリ山開きによせて

カムイ・ヌプリの同名山は北海道内にいくつもあるらしい。いずれも神霊の存在する山として昔からコタンの人達が尊んできた。

神様はひどい崖か、めだつ秀麗な独立山にいたようだ。

現在もなお標高750メートルの美しい姿は人々を魅了してやまない。

さらに時はさかのぼり洪積世の幌別室蘭地帯は氷期と間氷期を繰り返していた。第4紀層を見るとまずカルルス火山、幌別岳火山ついで来馬山・ポントコ山が火を噴いた。そして鷲別岳・クッタラ火山などの火山が息ぶき一帯は噴出物で厚く覆われた。

それから海中に没したり陸化し削削されたりを繰り返して現在の形に近づいたと考えられている。



山岳信仰は安全祈願の山開きと関わりがあるのだろうか。

ふもとの苅田神社は明治3年9月28日仙台藩白石の片倉小十郎邦憲が幌別郡の支配を命ぜられ移住した際に鎮守社に合祀し、現在に至る。

カムイ・ヌプリ中腹の真新しいしめ縄を結んだ御神木は今年もたくさんの登山者をみまもってくれることでしょう。

工藤貞子